

救急医学

ナンバリング

M4-S1-D26

責任者・コーディネーター		救急医学分野 眞瀬 智彦 教授			
担当講座・学科（分野）		救急・災害医学講座、岩手県高度救命救急センター			
担当教員		高橋 学 教授、藤野 靖久 特任准教授、藤田 友嗣 講師、小鹿 雅博 講師、千田 光平 講師、佐藤 正幸 助教、筒井 章太 助教、鈴木 利央 登 非常勤講師			
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義	9コマ	18.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

生命を脅かす傷病は突然人々を襲う。外傷や中毒、心筋梗塞や脳卒中などは短時間のうちに人の命を奪っていく。このような重症度の高い傷病者に対して、刻々と変化する病態に対応して速やかに適切な診断、そして処置を行う能力を学習しなければならない。さらに、応急処置にのみとらわれず科学的根拠に基づいた治療を目的とし、必要な知識と思考力を養うことが重要である。

・教育成果（アウトカム）

医療人としての全人的人間性を持って、豊かな教養を身につけ、常に自分を振り返る謙虚な態度を持ちながら、医師国家試験出題基準に定められた救急医学の知識・技能・態度を学修することによって、緊急性の高い患者に対する迅速な診療について説明できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー: 3,5,6)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	発熱、頭痛、腹痛などの一般的な症状、ショック、意識障害、呼吸困難などの重篤な症状を通して症候論的に思考し、的確な鑑別診断について説明できる。
2	緊急度の高い重症患者では、緊急処置が診断と同時進行か、時には診断に先行する判断について説明できる。
3	気管内挿管、除細動、輸液、中心静脈路確保、胸腔ドレナージなどの処置方法や、緊急薬品使用方法などについて説明できる。
4	各種診断書の書き方、感染症新法、食品衛生法、麻薬取締法、各種届出義務など救急医療関連法規について説明できる。

・講義場所

講義：東1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	4/4(金)	3	救急・災害医学講座	高橋 学 教授	救急医学概論	1,2,3,4
講義	4/4(金)	4	救急・災害医学講座	藤田 友嗣 講師	急性中毒	1,2
講義	4/11(金)	3	岩手県高度救命救急センター	筒井 章太 助教	意識障害・痙攣	1,2,3
講義	4/11(金)	4	岩手県高度救命救急センター	藤野 靖久 特任准教授	吐血・下血、異物誤飲	1,2,4
講義	4/18(金)	3	岩手県高度救命救急センター	千田 光平 講師	頭部外傷	1,2
講義	4/18(金)	4	救急・災害医学講座	佐藤 正幸 助教	ショック（総論）、環境異常（熱中症・低体温症）	1,2

講義	4/25(金)	3	岩手県高度救命救急センター	小鹿 雅博 講師	急性腹症、腹部外傷、胸部外傷、多発外傷、ショック	1,2,3
講義	4/25(金)	4	救急・災害医学講座	鈴木 利央登 非常勤講師	呼吸不全・溺水、誤嚥	1,2,3
講義	5/2(金)	3	救急・災害医学講座	高橋 学 教授	広範囲熱傷	1,2

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	標準救急医学 5版	有賀 徹 編	医学書院	2014

・成績評価方法

【総括評価】 進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。 【形成的評価】 小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。 実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

・特記事項・その他

1. 総論的領域 (1) 救急医学概論：救急医療体制、搬送、情報、災害救急、救急関連法律など (2) 救急医療総論：鑑別診断、検査・処置、心肺蘇生、緊急薬品、呼吸・循環管理、体液管理、多臓器不全、DIC、SIRS 2. 症状を中心とした領域 (1) 侵襲と生体反応・ショック (2) 意識障害・痙攣 (3) 呼吸困難 (4) 心臓発作・不整脈 (5) 腹痛 (6) 吐・下血 (7) 多発外傷 (8) 熱傷 (9) 中毒 (10) 自然環境障害（熱中症、減圧症、低体温など） (11) 異物誤飲・誤嚥 (12) 小児科救急（小児科） ＊時間的制約で消化できない分野は第5学年の臨床実習の小講義で補足する。 シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。 講義資料はWebclassで配信する。 本科目では、事前事後学修以外に各回1時間40分の自己学修を要す。 当該科目に関連する実務経験の有無 有 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。
--

・教育資源

参考書として「標準救急医学」（有賀 徹編：医学書院）を準拠する。講義にはP Cによる、バーチャルスライドを用いる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			